後期臨床研修カリキュラム【小児心臓血管外科】

総合医療センター

【特徴】

先天性心疾患の外科治療は近年急速に成績が向上している。その要因の一つに手術実施施設の集約化が寄与している。当科は、最重症から軽症まで、あらゆる種類の豊富な症例に接することが出来る、大阪市内唯一の施設である。日々の診療を通じて、外科および心臓外科の基本的知識をも同時に習得できるように指導している。

【研修目標】

１．一般目標

最終目的は先天性心疾患の外科治療の流れを理解し、実践できるようになることである。そのために、一般外科的手技の習熟、個々の疾患特有の血行動態の理解、診断方法の理解と習熟、外科治療方法の理解と習熟、関係他科医師（小児循環器内科、小児外科、小児総合診療科、麻酔科、集中治療部など）と関係コメディカルの連携などを十分にできるようになることである。

２．行動目標

(1) 外科基本手技（切開、縫合、創処置）が確実に実施できる。
(2) 基本的感染予防策を理解しかつ忠実に実践できる。
(3) 胎児循環および正常循環が理解できる。
(4) 先天性心疾患の血行動態について理解できる。
(5) 先天性心疾患の診断を行う。そのためには小児循環器内科医とともに心エコー、心臓カテーテル検査を実施する。
(6) 適切な術前管理法を理解し、実践できる。
(7) 患者、家族に対するインフォームドコンセントの方法を理解し、実践できる。
(8) 小児心臓血管外科手術の助手ができる。
(9) 小児心臓血管外科手術のうち難易度の低いものについては術者ができる。
(10) 体外循環装置についてその構造と使用方法が理解できる。
(11) 病棟、外来、ICUで使用する各種薬剤の薬理作用、副作用について説明できる。
(12) 各手術の標準的な術後経過を理解し、術後の全身状態を評価することができる。
(13) 新生児から学童まで、それぞれの特殊性を理解し全身管理を実践できる。
(14) 心肺蘇生の標準化治療法が実践できる。
(15) 日本外科学会専門医を取得するための要件を満たす。
(16) 各種資格（心臓血管学会専門医等）を取得するための要件を満たす。

【方略】

(1) 関係各科・各部門との連携を円滑に行う能力を養う。
(2) 上級医とともに病棟業務を行い、適切な術前管理に習熟する。
(3) すべての手術に関与し、助手を務める。
(4) 術後集中治療の理論を理解し、治療に参加する。そのために朝、夕の合同カンファレンスに毎日出席する。
(5) 上級医とともに、集中治療室を退室した患者の術後管理を一般病棟で毎日行う。
(6) 手術のない日には、心臓カテーテル検査の術者、助手を勤める。またできるだけ心エコー診断の現場に参加する。
(7) 年間2回以上の学会発表、1篇以上の論文執筆を行う。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【研修プログラム】

1年目（卒後3年目）	2年目（卒後4年目）	3年目（卒後5年目）
外科系専門科をローテート 病棟での術前管理、術後管理 すべての手術の助手 心臓カテーテル検査の助手 集中治療室で当直	病棟での術前管理、術後管理 すべての手術の助手、難易度の低い手術の術者 心臓カテーテル検査の術者	病棟での術前管理、術後管理 すべての手術の助手、難易度の中等度の手術の術者 心臓カテーテル検査の術者

【見学等問い合わせ先】

小児心臓血管外科部長　　西垣　恭一